

平成26年度 愛知県学力充実プラン推進事業（知多市教育委員会の取組）



1 推進事業について、お話しします。（概略）

学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成が重視されています。

こうした中、愛知県は全国学力・学習状況調査の結果を分析し、子どもたちが抱える課題を解決するための方向性をまとめた「学力・学習状況充実プラン」を示し、愛知県独自で作成した「結果分析プログラム」を配布して、市町村や小中学校それぞれが抱える課題を明らかにする取組を支援しています。

本事業では、市町村が、これら「学力・学習状況充実プラン」や「結果分析プログラム」を有効に活用し、学校と家庭との連携を図りつつ、学力向上を図る実践研究を推し進め、学校教育活動の一層の工夫・改善に努めることが期待されています。

知多市では、旭東小学校を拠点校として取り組むべき課題の解決に向け、学力充実のためのプランニングを行い、このプランに沿って学校の教育活動の改善に取り組んできました。その上で、市全体でこの取組の共有・周知を図るため、リーフレットを作成・配布することになりました。



2 平成25年度 全国学力・学習状況調査における知多市の主な課題をお話しします。

- ① 国語の主として「活用」に関する問題において、**書く能力と話す・聞く能力**がやや努力を要する状態にある。
- ② 算数の主として「知識」に関する問題において、**小数の加法や分数の加法など、基礎的な計算力**がやや努力を要する状態にある。
- ③ 算数の主として「活用」に関する問題において、**棒グラフの読み取り、割合に関する問題、面積に関する学習**について、やや努力を要する状態にある。
- ④ 児童質問紙から、家庭でゲームやインターネットに費やす時間が多く、**学習や読書の時間が少ない**。また、**自分によいところがあると思っていない**児童が多い傾向がある。



3 学力充実のためのプランを以下のように考えました。

以上の課題に対して、まず日常の授業を改善し、主体的に学習に取り組む態度を養うところから学力の向上を目指したいと考えました。研究推進テーマを「**児童の学力向上を目指した授業改善**」、サブテーマを「**ノート指導を中心にした授業展開の工夫を通して**」と掲げ、本年度は旭東小学校においてノート指導を中心にした授業改善に取り組むことにしました。ここで言うノート指導とは、国語と算数を中心に、授業で使用するノートを指しています。ノート指導の改善を図るということは、児童の思考を整理する板書計画をはじめとして、授業展開全体を見つめ直すことにつながります。めあて（学習課題）の提示や振り返りの設定により、習得から活用まで、その指導過程や単元計画を工夫・改善することで児童の学力充実を図ることにしました。

主な課題に対する、ノート指導の工夫により期待される効果は次のとおりです。

- ① 丁寧な視写指導の積み重ねから、「**できる**」**自己肯定感**を高め、まず「書く」ことに対する抵抗感をなくすことができる。次に、自らの考えを「書く」ことにより、分かったつもりではない**個々の学びを保障**し、実感させることができる。話し合い等の学び合いにおいても、**自分の考えを安心して伝えたり、相手の意見と比べたりする**ことができ、より学びの広がり、深まりが期待できる。
- ② 基礎的な計算も段階をスモールステップで、目に見える形で書くことになり、**思考の整理ができ、確実な習得**につながる。児童の**つまづきを早期に的確に捉え**、指導の機会にすることができる。
- ③ 図で全体像を捉えたり、多様な考えを導き出したりするために、具体的に書いて、**整理して捉える技能**を身に付けることができる。言語による思考が苦手な児童も、学習内容を把握しやすくなる。
- ④ 学校と家庭の連携を図るツールとして、ノートを介して児童が保護者に学校での学びを伝えることで**学習内容の定着**が期待できる。**家庭が児童の学びの軌跡を認め、褒める**ことにより、家庭と児童の自己有用感を相互に高め合える。児童の苦手としている学習内容や、小さな変化にも気づきやすくなり、**家庭学習を促す**だけでなく、ノートを通じて、**学校での学びを具体的に発信**することができる。
(次ページへ)